

Present for you — 新収蔵作品展

わたしからあなたへ／
みんなから未来へ

2014年1月5日(日)～
2月16日(日)

1987年4月の開館以来、町田市立国際版画美術館は版画を中心とするユニークな美術館として、国内外のすぐれた版画作品と資料を収集・保存し、版画をテーマとする展覧会を開催してきました。また、初心者から経験者まで幅広い層を対象にした実技講座や、各種の版画用具を備えた工房とアトリエを版画制作の場として一般に開放するなど普及活動も展開し、「見る楽しみ」と「作る楽しみ」を総合的に紹介してきました。

当館の収蔵品は現在、24,000点を越えています。「版画」という明確なテーマに基づいたコレクションは、他に類を見ない独自で貴重なものとなっていると自負しています。近年はその活動実績を評価していただき、寄贈作品の数も増加しています。今後も古今東西の版画の歴史が多面的・総合的に理解できる質の高いコレクションの形成を目指して、継続して収集活動につとめていきたいと考えています。

本展では2013年に新たに当館に収蔵された607点の作品のなかから、主な作品約70点をご紹介します。江戸時代から現代まで、また、日本から西洋までと、盛りだくさんな内容となっております。本展によって版画をより身近に感じていただくとともに、当館の活動に対しいつそうのご理解をいただければ幸いです。

「Present for you — 新収蔵作品展 わたしからあなたへ／みんなから未来へ」とは、当館

に収蔵される作品が、貴重な文化遺産として大切に保管され、未来へと伝えるべきものであり、同時に市民ひとりひとりから未来へのプレゼントでもあるという気持ちをこめたタイトルです。本展を通じて、当館収蔵資料の充実に寄与された方々を顕彰するとともに、当館の活動がさまざまな人々によって支えられ、市民ひとりひとりも美術館のサポーターであるということをご理解いただければ幸いです。

2014年1月

町田市立国際版画美術館

※作品データは、基本的に次の順で表記しています。

作者名、生没年、解説、出品番号(①などは枝番号)、
題名、制作年、技法、寸法、購入／寄贈者

※日本作家名のローマ字表記については、姓を大文字で記載しています。

※日本人作家の作品の制作年については、必要に応じて元号を併記しました。

1 神馬図・般若心経板木

室町時代(15～16世紀)

147×355mm

◆野澤克昌氏より寄贈

板の両面に長方形の区画を設け、片面に神馬と響をとる烏帽子姿の神人、もう片面には『摩訶般若波羅蜜多経』を陽刻しています。

禅宗の寺院では、祈祷や盂蘭盆会の際に般若心経と馬の図を摺って仏殿の柱に掛け、鬼神に施す「経馬」と呼ばれる行事があり、そのような目的に使用されたと考えられます。

2 地藏三尊立像板木

室町～江戸時代(16～17世紀)

234×135mm

◆野澤克昌氏より寄贈

長方形の区画の中に、地藏菩薩と両脇侍の立像がおおらかな線であらわされています。

大きめの寸法から、上から紙を載せて摺り取る摺仏の板木であると考えられます。

「神馬図・般若心経板木」とともに、創作版画の第一人者であった平塚運一の旧蔵品です。

三代歌川豊国(1786~1864)

UTAGAWA Toyokuni III

初代歌川豊国の門人で、役者絵を中心に美人画・版本挿絵・源氏絵などを手がけた浮世絵師です。歌川派の隆盛を決定的にし、幕末の浮世絵界に君臨しました。《東海道 神名川》は1863(文久3)年に行われた將軍家茂の上洛(地方から京都へのぼること)を描いた、通称「御上洛東海道」と呼ばれる揃物のうちの1枚です。

3 東海道 神名川

1863(文久3)年

木版多色 362×248mm

◆壇圭一郎氏より寄贈

三代歌川広重(1842~1894)

UTAGAWA Hiroshige III

はじめ初代広重、のち二代広重に学んだ浮世絵師です。東京名所、横浜絵、開化絵など文明開化の世相を主題とする作品を多く描きました。

「東京土産名勝図会」は、1884(明治17)年刊行の揃物で、洋装の人、外国人が描きこまれることが多く、名所についての説明が各図についています。

4 東京土産名勝図会 亀戸天満宮

1884(明治17)年

木版多色 363×244mm

5 東京土産名勝図会 亀戸天満宮社内 妙儀社初卯

1885(明治18)年

木版多色 363×242mm

◆No. 4、5 壇圭一郎氏より寄贈

小早川清(1899-1948)

KOBAYAKAWA Kiyoshi

博多生まれ。上京して17歳で鏨木清方かぶらぎきよかたに入門。1924(大正13)年の第5回帝展に初入選以来、主に官展を舞台に日本画家として活躍し、数々の美人画を残しました。昭和のはじめには、浮世絵版画の収集と研究に裏打ちされた伝統木版画の制作に集中しました。《瞳》は、浮世絵にならって制作した、モガ(モダンガール)と呼ばれる流行の尖端の女性を描いた6点の連作からなる『近代時世粧』の内の1点です。

6 近代時世粧ノ内 瞳

1930(昭和5)年

木版多色 461×270mm

7 芸者市丸

1930(昭和5)年頃

木版多色 408×258mm

8 湯上り

1930(昭和5)年頃

木版多色 410×268mm

◆No. 6~8 小野近士氏より寄贈

笹島喜平(1906-93)

SASAJIMA Kihei

栃木県の益子町生まれ。最初、平塚運一や棟方志功らに学んで白と黒による雄勁な木版画ゆうけいを制作していましたが、外傷性肋膜炎ろくまくえんを患ってからは、体力の問題から拓摺りたくずりの方法で独自の版画制作をはじめ、生涯にわたって制作し続けました。展示作品は、木版から拓摺りへと移行する時期に制作したコラグラフ(版材に色々な素材を貼り付けたり、塗ったりして作る版画)作品で、笹島の作品のなかでは珍しいものです。

9 題名不詳(長崎の教会)

1959(昭和34)年

コラグラフ 300×212mm

◆山森正明氏より寄贈

小野忠重 (1909~1990)

ONO Tadashige

東京生まれ。1932 (昭和 7) 年に藤牧義夫ら仲間と、「版画の大衆化」を主張して「新版画集団」を結成し、そのリーダーとして制作と発表を展開。その後 1937 年 (昭和 12) に、「版画の絵画性の確立」という新たな目標を掲げて造型版画協会を結成して活動しました。戦前は社会や市民の生活に取材したモダンな作風の木版画を制作。戦後も社会派の版画家として活動したものの、その一方で、ヨーロッパや海に取材した哀愁漂う物語的な木版画を制作。最初に紙を黒などに染め、その上に色を刷る陰刻法いんこくほうで制作しました。

10 かっぱ 河童

1938 (昭和 13) 年
木版多色、手彩色 645×1040 mm

11 川

1952 (昭和 27) 年
木版多色 306×456 mm

12 太鼓

1954 (昭和 29) 年
木版多色 611×925 mm

◆No. 10~12 小野近士氏より寄贈

藤田嗣治 [レオナルド・フジタ] (1886-1968)

FUJITA Tsuguharu (Léonard FUJITA)

東京生まれ。東京美術学校西洋画科本科卒業後、1913 (大正 2) 年に渡仏。流麗な線で描かれた、美しい乳白色の肌をもつ裸婦像でパリ画壇の寵児となりました。展示作品は 6 枚セットで販売されたポートフォリオのうちの 2 枚で、前述した藤田の裸婦像の特徴をよくあらわしています。

13 『Les Femmes (女たち)』より

1930 (昭和 5) 年
エッチング 555×365 mm

14 『Les Femmes (女たち)』より

1930 (昭和 5) 年
エッチング 561×373 mm

◆No. 13、14 山岸紀美江氏より寄贈

木村忠太 (1917-1987)

KIMURA Chuta

高松市生まれ。1930 年代後半から第二次大戦後間もない時期は独立美術協会の油彩画家として活動。1953 (昭和 28) 年にフランスに渡り、以後パリに定住して制作を続けました。渡仏後早い時期から注目され、対象を大胆に簡略化した色面、即興的な線、中間色を基調とする洗練された色彩による表現が東洋と西洋の融合、具象と抽象の統合として高く評価されました。1969 (昭和 44) 年にリトグラフを制作して以来、生涯に 23 点の版画を制作しています。

15 植物園の庭

1974 (昭和 49) 年
リトグラフ 710×510 mm

16 クロ・サン・ピエールの庭

1975 (昭和 50) 年
リトグラフ 530×340 mm

17 夏の庭

1977 (昭和 52) 年
リトグラフ 505×320 mm

18 ミディーの庭

1982 (昭和 57) 年
リトグラフ 595×488 mm

19 クロ・サン・ピエールの坂道

1986 (昭和 51) 年
リトグラフ 755×535 mm

◆No. 15~19 木村幸子氏より寄贈

加山又造 (1927-2004)

KAYAMA Matazo

京都生まれ。東京美術学校日本画科卒業。東洋美術の伝統と西洋美術の潮流にならった革新的な日本画を制作しました。一方で日本画では珍しい裸婦を描き、銅版画やリトグラフも手がけるなど、伝統的なモチーフや技法にとらわれない制作もおこないました。展示作品は裸婦と装飾の対比と、線描を際立たせる銀地が目を惹くリトグラフ、そして個性的なスタイルで描写された銅版画です。

20 レースの裸婦①

1978 (昭和 53) 年

リトグラフ 360×540 mm

21 夏

1981 (昭和 56) 年

リトグラフ 420×565 mm

22 横になる裸婦' 84 (黒衣)

1984 (昭和 59) 年

エッチング、アクアチントほか

293×415 mm

23 黒いガウンの裸婦' 85

1985 (昭和 60) 年

エッチング、アクアチントほか

266×383 mm

◆No. 20~23 山岸紀美江氏より寄贈

行元 昭子 (1928 年生まれ)

YUKIMOTO Akiko

岡山県生まれ。町田市在住。女子美術大学洋画科卒業。油彩画では朱葉会会員で、1988年に東京都知事賞を受賞しています。武蔵野美術学園でエッチングを習得し、1979 (昭和 54) 年から日本版画協会および春陽会版画部に出品しています。

24 植物 I

1982 (昭和 57) 年

エッチング 550×450 mm

25 ロープのある風景 II

1983 (昭和 58) 年

エッチング、アクアチント 600×450 mm

26 猫とアロエ

2002 (平成 14) 年

エッチング、ソフトグランドエッチング、
アクアチント、手彩色 600×450 mm

◆No. 24~26 作者より寄贈

松本 旻 (1936 年生まれ)

MATSUMOTO Akira

大阪府生まれ。版の特質や構造に強い関心を持ち、実験的な制作を続けています。展示作品は一枚の同じ版から刷られ、青、赤、黄、グレーの4枚を較べてみると、正方形の版を90度ずつ回転させて刷っていることがわかります。4回4色を刷り重ねたものが「配置 (転回 W-13)」という完成作です。すべての円に重なることなく色が入っており、綿密な計算のもとに版が作られていることがわかります。

27 ①配置 (転回 W-13)

②青 (転回 W-13)

③赤 (転回 W-13)

④黄 (転回 W-13)

⑤グレー (転回 W-13)

各 1994 (平成 6) 年 木版 800×800 mm

◆松本伸太郎氏より寄贈

高橋 勝 (1938-2010)

TAKAHASHI Masaru

東京生まれ。武蔵野美術大学西洋画科卒業。立体作品を中心に、版画やコラージュなども制作しました。旅行用のトランクをモチーフにした「旅行者」を主題とする金属やアクリル素材による立体作品を制作し、さらにはそれを用いての写真やパフォーマンスへと展開していきました。長野県的美ヶ原高原美術館に設置されたステンレスと石による『旅行者 (スウェーデンの四季)』が代表作。1980年代以降は日韓の美術交流に尽力しました。

28 旅行者（バラと菜の花）
1972（昭和47）年
スクリーンプリント 425×565mm

29 積み藁のある風景
1972（昭和47）年
スクリーンプリント 395×485mm（紙）

◆No. 28～29 萩原いく代氏より寄贈

清水 洋子（1942年生まれ）

SHIMIZU Yoko

東京都出身、武蔵野美術大学油絵科卒業。リトグラフを織田一磨石版術研究所および日本美術家連盟版画工房で学び、おもに個展で作品発表を続けています。1970（昭和45）年自宅に石版画工房を開設、さらに1997（平成9）年にはギャラリーも併設、リトグラフに加え、水彩、コラージュ、アクリル画などの制作と発表を行っています。

30 占兆の星々
2005（平成17）年
リトグラフ、コラージュ、ガラス玉
1940×1620mm

◆作者より寄贈

鈴木信吾（1944—1993）

SUZUKI Shingo

旧満州国奉天生まれ。立教大学在学中に画家を志し、パリに渡り、アトリエ17で銅版画を制作するとともに、デッサンから絵画を学び直しました。また、フランス国立図書館に古版画を閲覧に通い、銅版画の技法や歴史を勉強しました。帰国後はメゾチント、さらにはスティップル・エングレーヴィングを制作、銅版にビュランで一つ一つ点を彫るという忍耐と集中力を必要とするこの技法で、1986（昭和61）年以降は多色刷りにも取り組みました。困難な制作を支えたのは、この技法だけで制作するのは自分ひとりだという自負でした。

31 長い拍手
1982（昭和57）年
メゾチント 270×360mm

32 みどりのプリズム
1986（昭和61）年
メゾチント 315×440mm

33 アダムとイヴ I
1987（昭和62）年
スティップル・エングレーヴィング
365×297mm

34 natural days
1989（平成元）年
スティップル・エングレーヴィング
70×70mm

35 cherry and kiss
1989（平成元）年
スティップル・エングレーヴィング
70×70mm

36 そして春
1990（平成2）年
スティップル・エングレーヴィング
100×110mm

◆No. 31～36 鈴木雅子氏・翔三氏より寄贈

37 作品集『IDEA・SENSE・EXPRESSION展』
2005（平成17）年

①飯室哲也（1947年生まれ）

IIMURO Tetsuya

グリーンの中で

鉛筆、絵の具他 320×410mm

②加藤富也（1955年生まれ）

KATO Tomiya

無題

写真、PC編集、レーザープリンター印刷
255×365mm

③白井嘉尚 (1953 年生まれ)
SHIRAI Yoshihisa
無題
インク、パステル他 315×225mm

④服部賢司 (1945 年生まれ)
HATTORI Kenji
無題
絵の具 220×310mm

⑤宮下圭介 (1944 年生まれ)
MIYASHITA Keisuke
Under Pinkish Gray
スクリーンプリント 275×210mm

⑥山崎宏 (1965 年生まれ)
YAMAZAKI Hiroshi
即今・059
顔料 318×410mm

HATTORI Kenji
無題
絵の具、クレヨン 200×300mm

⑥宮下圭介 (1944 年生まれ)
MIYASHITA Keisuke
Sign on sign
シルクスクリーン 275×210mm

各集とも版画やパステルなど 6 作品を収録したもので、飯室哲也氏の呼びかけによりギャラリー一檜で開催された同名グループ展の記録集として制作されました。参加作家は展覧会名にある観念・感覚・表現に関心を持ち、独自の表現を追及しています。またそのジャンルは平面・立体・版画・写真など多岐にわたっています。

◆No. 37、38 飯室哲也氏より寄贈

38 作品集『IDEA・SENSE・EXPRESSION 展』
2006 (平成 18) 年

①飯室哲也
IIMURO Tetsuya
2006・グリーンの中で
鉛筆、絵の具他 320×410mm

②伊藤純子 (1946 年生まれ)
ITO Junko
RONDE
絵の具 410×320 mm

③加藤富也 (1955 年生まれ)
KATO Tomiya
無題
写真、PC 編集、加筆、
レーザープリンター印刷 255×365mm

④白井嘉尚 (1953 年生まれ)
SHIRAI Yoshihisa
無題
絵の具、パステル他 410×320mm

⑤服部賢司 (1945 年生まれ)

ヨハン・ゴットリーブ・プレステル (1739—1808)
Johann Gottlieb PRESTEL

マリア・カタリーナ・プレステル (1747—1794)
Maria Katharina PRESTEL

ヨハン・ゴットリーブとマリア・カタリーナのプレステル夫妻がニュルンベルクで営んだ工房からは非常に美しい版画が生みだされました。彼らは歴史上の有名無名の画家の様々な作品を版画化し、18 世紀後半のドイツで人気を博しました。淡彩やパステルなど、各技法の特色を多色刷りの銅版画で表現しており、その作品は彼らの名をとって「プレステル版画」とも呼ばれます。

39 版刻：ヨハン・ゴットリーブ・プレステル
原画：不明 (イタリア)
Anonymous Italian
聖ステファヌスを助祭に叙階する聖ペテロ
1773年
エッチング、アクアチント (黒、濃茶、薄茶 3 版)
274×395mm

- 40 版刻：ヨハン・ゴットリープ・プレステル
 原画：G. D. フェレッティ
 G. D. FERETTI
 フローラの王国
 1780年頃
 エッチング、アクアチント、クレヨン法
 ラヴィ法（黒、黄土色2版） 238×424mm
- 41 版刻：マリア・カタリーナ・プレステル
 原画：氏名不詳の南ドイツの画家による1548年の作品
 Drawing by anonymous southern german painter in 1548
 キリストの生誕
 1780年頃 エッチング、アクアチント、
 ラヴィ法（黒、赤茶2版） 305×224mm

- 42 版刻：ヨハン・ゴットリープ・プレステル
 原画：クレス・モリネール
 Claes MOLENAER
 冬のオランダの村
 1798年頃
 エッチング、
 アクアチント(数版とプベ法による多色刷り)
 651×517mm

◆No. 39～42 購入

サンティ・パチーニ (1735-1800c.)
 Santi PACINI

サンティ・パチーニはセピアで刷ったアクアチントによる複製版画を数多く制作している版画家で、濃淡の諧調の表現に優れ、淡彩画のタッチをよく再現しています。

- 43 版刻：サンティ・パチーニ
 原画：アントニオ・テンペスタ (1555-1630)
 Antonio TEMPESTA
 戦闘の場面
 エッチング、アクアチント、
 セピア色の刷り 171×233mm (紙)
 ※プレートの内側で断裁

◆ヘルムート&ペトラ・ルンブラー夫妻より寄贈

シャルル・メリヨン (1821-1868)
 Charles Meryon

フランスの版画家。海軍勤務ののちエッチングを始め、詩情豊かな風景版画を制作しますが、次第に精神を病み、妄想のなかで世を去りました。出品作品は『パリの銅版画』の中の1点。1850年から54年にかけて制作されたこの22点の連作は、大改造で失われていくパリの風景を詩情豊かに描き出したもので、清澄で明確でありながら、不穏で幻想的な描写が魅力となっています。

- 44 テイクセランドリ街の小塔
 1862年
 エッチング 265×142mm

◆青木和弘氏より寄贈

エルンスト・フックス (1930年生まれ)
 Ernst Fuchs

オーストリアの画家、版画家。ウィーンの前裕福な古物商の家に生まれました。第二次世界大戦後にウィーン美術学校で学び、その精緻な技巧を高く評価されます。ウィーン幻想派のメンバーのひとりとして、『旧約聖書』や神話に題材をとった文学性の強い作品を制作しました。銅版画作品も数多く手がけています。

- 45 裁くサムソン
 1962年
 エッチング 307×237mm

- 46 神秘なるエヴァとしてのダフネ
 1969年
 エッチング 393×297mm

◆No. 45、46 青木和弘氏より寄贈

マルク・シャガール(1887-1985)

Marc Chagall

白ロシア（現在のベラルーシ共和国）のヴィテブスクで、ユダヤ人家庭の長男として生まれました。早くから画才をあらわし、ロシアの風土や人々のほか、恋人たちの姿や動物などを色彩豊かに描きました。20世紀を代表する画商アンブローズ・ヴォラールに認められて、数多くの版画集も残しています。

47 キツネとブドウ

1928-31年（1952年刊）

エッチング 292×240mm

◆青木和弘氏より寄贈

パーヴェル・リュバルスキー（1891-1968）

Pavel Liubarskii

ハバロフスク生まれ。モスクワ絵画彫刻建築学校で学ぶ。1918年に、郷里で「緑の猫」を結成しアヴァンギャルド美術家として活動を開始したのち、20年にウラジオストクへ移動して構成主義的な作品を制作しました。その後28年にモスクワに移り住んで美術家として活動。展示作品は「緑の猫」時代に制作された12点組リノカットの版画集のうちの8点。これらの作品は、1920（大正9）年にロシア未来派の画家ダヴィト・ブルリュークらが来日した際に携行した原版を戦後に刷った後刷り。表現主義的な作風が見られます。

48 『娼婦』より 1919-20年

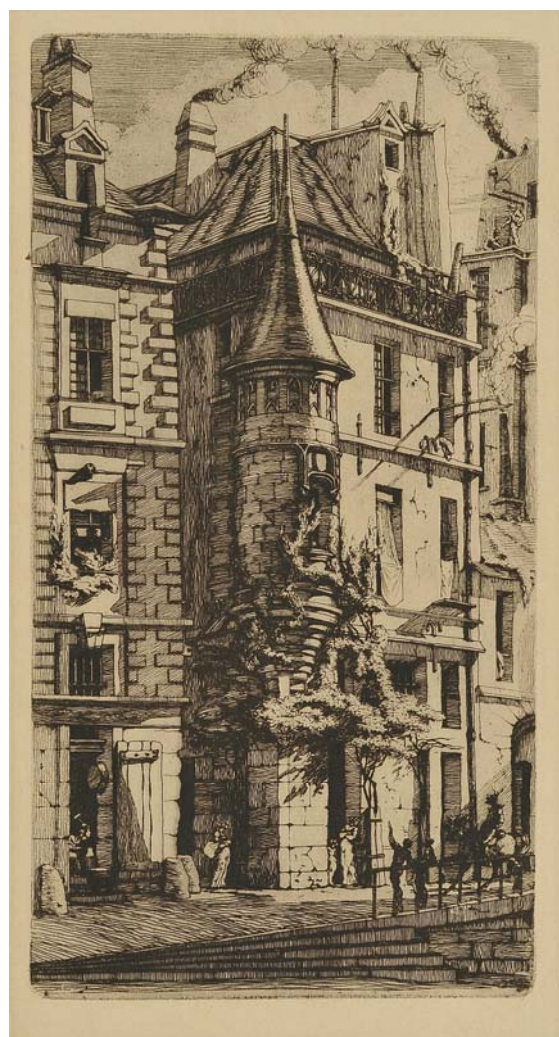
リノカット

※1960-70年代の後刷り

- | | |
|-------------------------|-----------|
| ①良心の ^{かしゃく} 呵責 | 133×69 mm |
| ②満ち足りた生活 | 136×91 mm |
| ③明けても暮れても | 87×143 mm |

- | | |
|------------------|------------|
| ④まさかのときに | 154×68 mm |
| ⑤きれいな体だけ | 125×102 mm |
| ⑥十字架に架けられた女、無用な女 | 137×75 mm |
| ⑦救世騎士団 | 138×87 mm |
| ⑧もう背後に | 125×87 mm |

◆小野近士氏より寄贈



44 シャルル・メリヨン
《ティクセランドリ街の小塔》

2013年1月5日発行

町田市立国際版画美術館
東京都町田市原町田 4-28-1
<http://hanga-museum.jp/>